

集落支援員 1年目のふりかえり

～農村RMOとともに歩む～

令和6年1月25日

伊達市集落支援員（霊山地域担当）

かもしか創生舎

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりようぜん」 事務局長

浜田 和彦

目次

はじめに

- 1．経緯（浜田の活動ふりかえり）
- 2．協議会の概要
 - 1）協議会名称
 - 2）体制
 - 3）取り組み概要
 - 4）今後の予定
 - 5）地域づくりのポイント

はじめに

集落支援員の受諾にためらった理由・・・



農村RMOの存在

1. これまでの経緯（浜田の活動ふりかえり）

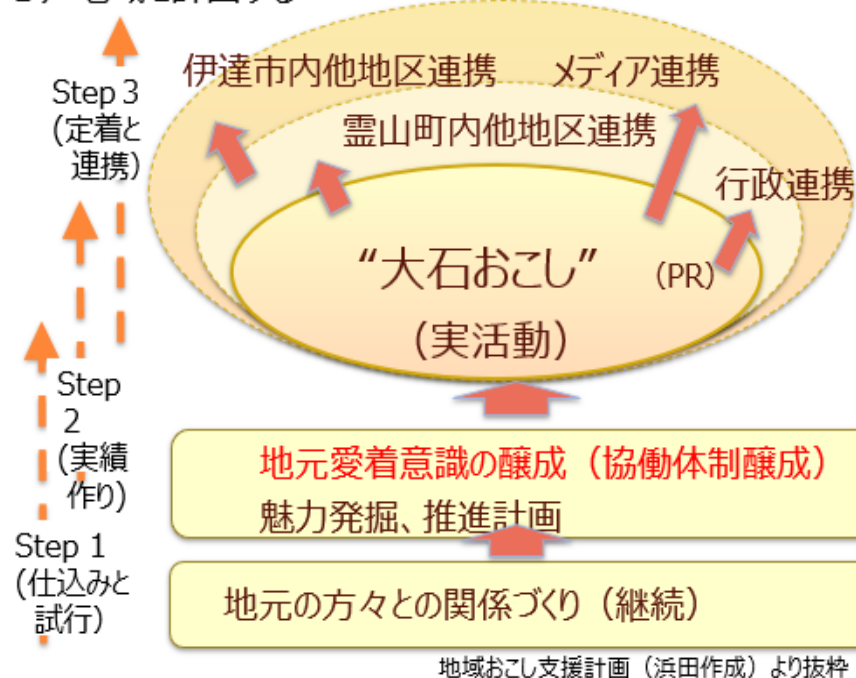
1) 地域おこし支援員活動（2018年7月～2021年6月末）

☆ 目標：

地域の魅力発信→愛着意識の醸成→協働体制の醸成

2. 大石地区での活動

1) 地域を計画する



☆ 評価：

・地域との関係づくり：○

・地域に見える化：○

(大石ふるさと探訪、閉校記念アルバム)

→ 愛着意識の醸成 (魅せる化)：△

・協働体制の醸成：×

☆ 原因：・無権限

・個人活動の限界 (仲間不足)

・期間の限界 (3年間)

2) フリーランス活動 (2021年7月～2023年5月末)

①伊達地方目線での地域の魅力発信 (伊達の魅力発見ツアー)

- ・霊山道先案内人活動
- ・地域活性化に関する各種ワークショップのお手伝い

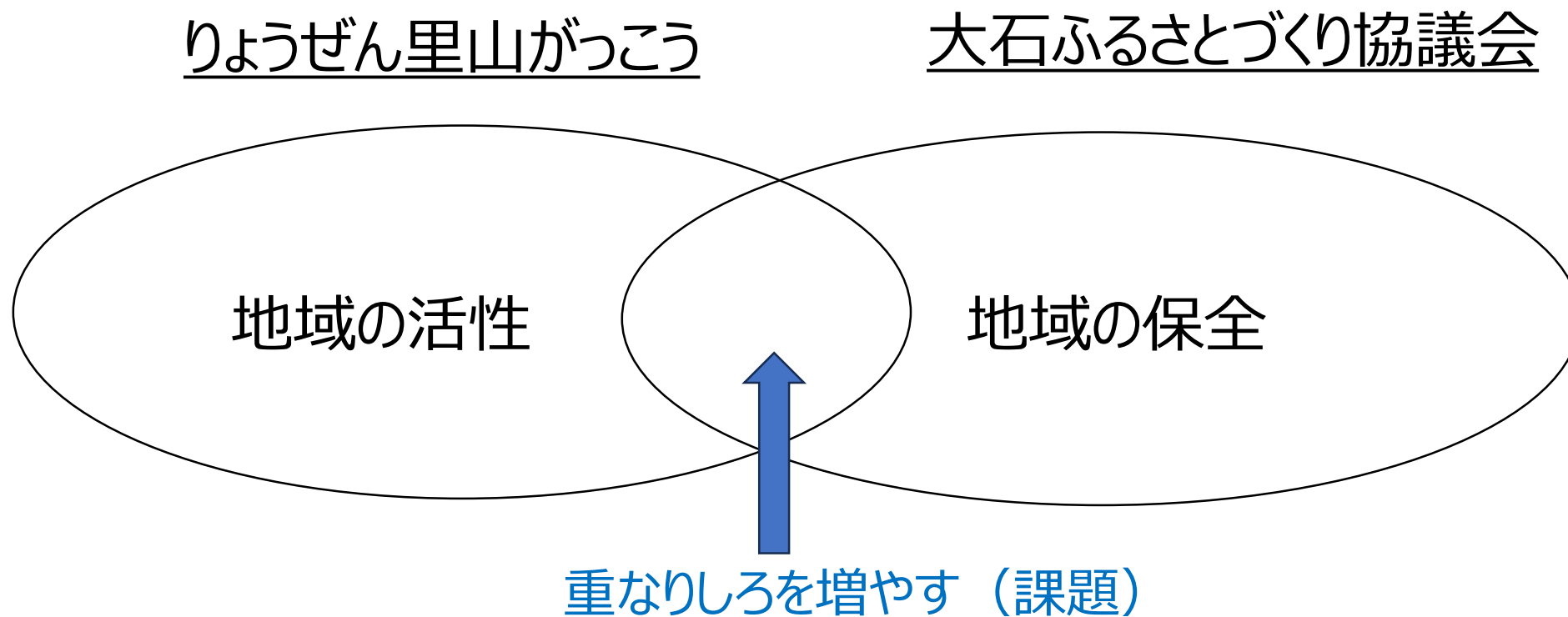
②NPO法人りょうぜん里山がっこう支援 (自身の活動方針とオーバーラップ)

- ・大石3ちゃん倶楽部、さすけねえサロン (健康講座)、健康の見える化・・・

☆評価

- ・地域の魅せる化(地域愛着の伝播) : △
- ・地域の暮らし (困りごと) 支援 : ×
- ・協働体制 (地域をほっとけない、志をともにする仲間、浜田の後継) : ×

◎ 霊山町大石地区の二極構造（イメージ）



・地域＝大石＋近隣地域

・活動＝外方向（地域の交流、自立）

・地域＝大石

・活動＝内方向（地域住民の暮らし）

地域がつながる（個々の力をあわせる）

3) 集落支援員活動（2023年6月～）

=> 農村RMO事業のスタート

☆農村RMOとは

- ・**農林水産省**が提唱する助成事業。中山間地域において地域づくりに関わる複数の団体や組織が相互連携し、**組織横断型で活動を推進していく地域運営組織（協議会）を支援**（自治会、NPO活動団体、農業団体、社会福祉協議会、地域コンサルタント他組織等の連携）。
- ・活動の基礎となる「**農用地の保全**」、「**地域資源の活用**」、「**生活支援**」に関わる将来ビジョンを策定、これに基づき各事業を計画・実証する（期間 3 年間）

<農村RMO応募～設立までの経緯>

- ・2023年3月：りょうぜん里山がっこうのこれまでの取組実績をベースに、地域における農村RMO活動の今後と取り組み方針を提案、応募
- ・2023年7月：福島県では初の事例として農水省より認可
設立総会にて協議会が発足

<メリット>

- ◎地域の総合力を結集し、大石地域を再生するにはまたとない機会（追い風）
（国県市町村の後押し、交付金補助）
- 地域の注目度、知名度アップ
他地域からの組織・人との交流の拡大、

2. 協議会の概要

1) 協議会名称

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」

＊令和6年7月27日、有志構成員（団体）による設立

<組織名への思い>

○“チーム”

地域を良くしたいという思いをもった有志のグループ
志があれば誰もが参加でき、ゆるやかに明るく協働で活動を行っていきこう！

○“さすけネット”

伊達地方の方言「さすけねえ」は「だいじょうぶ、問題ない」という意味
困難な状況でも、この言葉で緊張を緩和し地域に住む人との良きネットワークを！

○“りょうぜん”

霊山町大石地区が対象地域だが、これからの事業を考えると当地区内に固執する
事なくさまざまな外部関係者含めてのダイナミックな活動が重要

2) 体制

チームさすけネットりょうぜん

「構成員」

NPO法人りょうぜん里山がっこう（事務局）

大石3ちゃん倶楽部（実践団体）

大石中山間地域等直接支払い協定集落

（有）りょうぜん天味園

パン工房ポレット

大石健康長寿サロン（実践団体）

ふれあいカフェ「わくわく365」

かもしか創生舎

「連携団体」

（株）EM研究機構

（株）DCSふくしま

MBTリンク福島研究所

（株）ナナイロ

「県・市町村関連機関」

伊達市包括支援センター

伊達市産業部農政課

福島県農林水産部農村振興課

福島県県北農林事務所

3) 取り組み概要

<目指す方向性（仮ビジョン）>

「誰もが安心して暮らせる里山」、
「誰もが未来に希望がもてる里山」、
「誰もが訪れてみたくなる里山」をめざし、
大石地区ならではの自立できる地域、
持続できる地域、
魅力ある地域

をつくりあげる。

<分野別仮ビジョン>

分野	概要
農用地保全	100%有機栽培での農地保全を実現し、中堅世代の農業者が核となり、高齢者の少量多品目生産・販売を拡大し、地域資源を活用した6次化商品の製造・販売も事業化して自立経営を確立する（法人化）。
地域資源 活用	豊かな大石の地域資源（自然・文化・食農）を掘りおこし、付加価値を与え（ブランド化）、発信（プロモート）する事で、人の流れ（交流）、モノカネの流れ（物流・販売）を促進する。
生活支援	誰もが命と尊厳を守りながら自分らしく暮らし続ける共生型コミュニティをめざし、高齢者の健康コミュニティ・ヘルスケア・生活ケアを協働推進して、自主運営の法人を設立する。

<分野別取り組みテーマ（案）>

分野	取り組みテーマ
農用地保全	・有機 1 0 0 %農業推進 ←大石 3 ちゃん倶楽部の発展形 －土づくり勉強会（継続）、個別技術サポート －有機 1 0 0 %（EM菌活用農法） 1 0 h a 実証 ・遊休農地活用計画 －体験農園（利用計画、設営、実証） －農福連携（活用計画、設営、実証） ← B 型就労支援活用 ・獣害対策計画、実証

分野	取り組みテーマ
地域資源活用	・地域資源活用研究会の発足（中堅若手メンバー主体） －地域資源活用（自然・文化・食農）に関する計画 （地域での収益獲得、交流促進、付加価値の向上 観点） ・I Tを活用した物流／販売計画・推進（ネット販売等） ・6次化商品計画・実証 ・地域の食の開発・プロモーション ・地域資源活用実証（体験会・ワークショップ） ・地域学生参画共同イベント企画・推進 ・地域の魅力発信・実証

分野	取り組みテーマ
生活支援	・生活支援（暮らし）に関する全世代を対象とした意識調査 ・高齢者の健康・生きがいつくり地域浸透計画 ←さすけねえサロンの発展形 ・高齢者の見守り・生活支援計画（外出支援、除雪、草刈等） ・高齢者の見守り・生活支援実証 －外出支援実証（車・地域住民有志による運転手確保） －地域のナースサポート事業 －健康の見える化実証（モニターの拡大、データ活用の浸透） ・生活・福祉の関する行政、関連団体との連携計画 （伊達市健康福祉部、包括支援センター等との役割分担）

◎メディアへの露出

令和5年度農村RMO推進フォーラム（東北）資料 2023/10/11（水）

つむぎ合い響き合う里霊山をめざし
～伊達市霊山町大石地区の取組事例～



大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」
事務局長 浜田 和彦

2023/10/11
農村RMO推進フォーラム（農水省主催）



2024/1/1 農業共済新聞 新春記事
（ひとが輝く、むらが輝く）

4) 今後の予定

◎令和5年度中（～2024.3）

- ・大石ふるさとづくり協議会との今後の連携の基礎づくり
- ・地域の将来ビジョンの策定と地域住民への共有
 - ＊2月、地域住民との意見交換会を予定
（大石の未来を語る会（仮称））

◎令和6年度

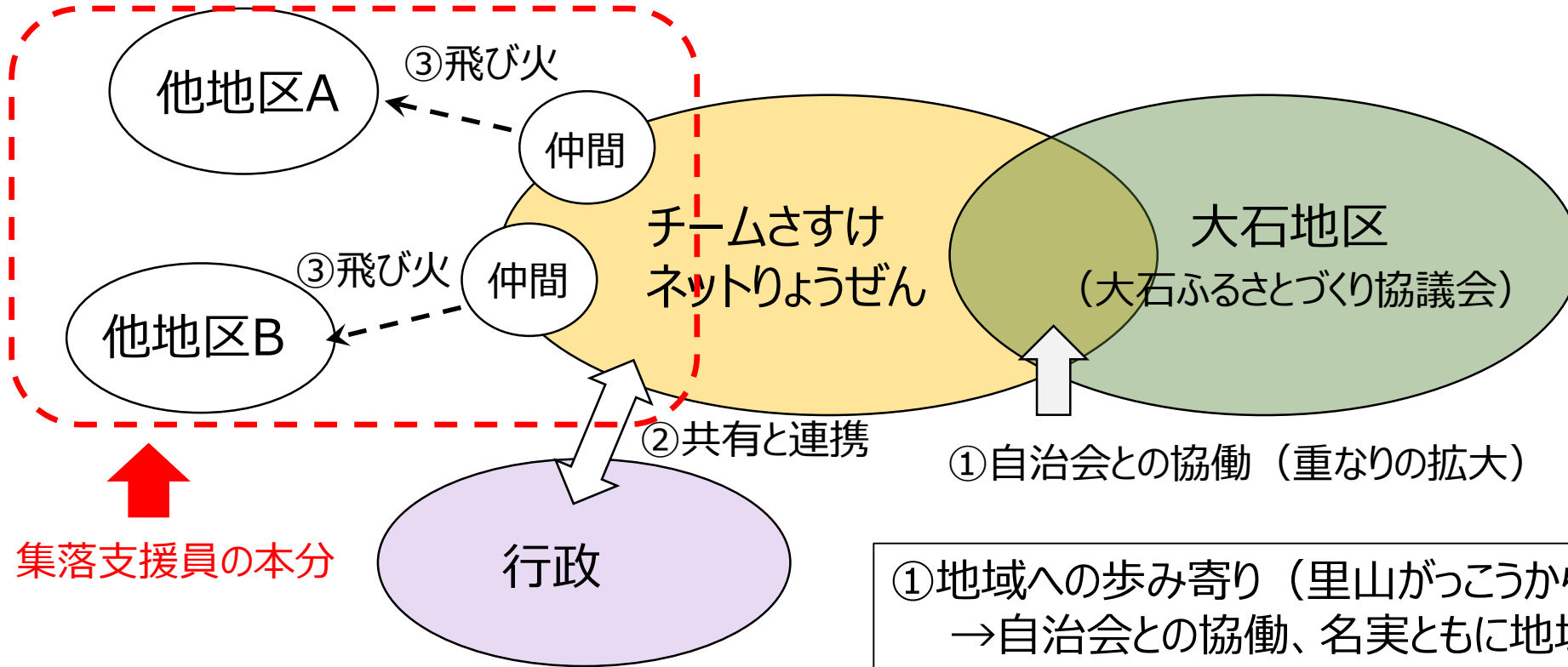
- ・ビジョンを実現するための体制づくり、計画づくり
- ・計画に基づいた実証と評価（～令和7年度）

5) 自立、持続の地域づくりのポイント

- ・わかりやすい将来ビジョン（自分事として投影できる）
- ・できることからやる（得意分野を生かす）
- ・みんなでやる、楽しくやる（三人寄れば文殊の知恵）
- ・小さな成功体験の積み重ね → 自信の蓄積
- ・地域のつながりの根源は感謝の輪（小さなありがとう、ご苦労様）
- ・住民同士の協働 → 組織の連携、外部との連携

6) 目指す方向性

☆チームさすけネットりょうぜんならではのRMO事業展開



- ①地域への歩み寄り（里山がっこうから外にでる）
→自治会との協働、名実ともに地域のサービス事業へ
- ②行政との共有・連携強化
→積極的な情報発信活動と営業活動
- ③事業を考える仲間づくり（内外）
→さすけネットモデルの他地区への飛び火

おわりに

◎ 農村RMOは地域づくりのモデル（縮図）であり壮大な実験場

◎ 成功の試金石

- ・体制づくり
- ・連携づくり（行政側も自分事として伴走）



ご協力宜しくお願いします

ご清聴ありがとうございました